

中尊寺境内の白山神社能舞台

中尊寺境内の白山神社能舞台のことについては、次のホームページに要領良く説明されている。

<http://www.i-tiiki.biz/hiraizumi/cyu-k/sirayama.html>

このホームページでは、次のように説明している。すなわち、

『 中尊寺境内の能舞台（白山神社能楽殿）は、重要文化財にも指定されていて中尊寺を代表する施設の一つです。現在の白山神社能楽殿は1853年に再建されたものですが、日本を代表する能舞台の遺構と言われている、現在でも藤原まつりや中尊寺薪能では演能が行われています。』

『 能楽堂を過ぎていくと白山神社の本殿があります。白山神社は中尊寺の中にありますが、歴史は中尊寺より古く奥州藤原氏の初代、清衡公が平泉を開く遙か昔（850年）に中尊寺を開山した慈覚大師円仁によって、この地に祀られたとされ、その後藤原氏により、北方を鎮護する神として、中尊寺の本殿と共に崇められたと伝えられています。』

『 一説によると白山神社は、白山信仰に関係があり、北陸の霊峰白山で修行をした修験者達によって広められたと言われます。』

『 実は当時の岩手や秋田には金山が多く、その為山文化が盛んで、山の民と呼ばれる人達が、集団で生活していたと言われます。』・・・と。

それでは、白山神社能楽殿にご案内するとしてしよう。

中尊寺は、JR東北新幹線の一関駅で在来線に乗り換えて、二つ目の平泉駅から行く。タクシーで数分のところだ。中尊寺は、毛越寺とともに世界遺産になったし、あまりにも有名であるが、ほとんどの人は白山神社能楽殿まで足を伸ばすことはないようだ。中尊寺には、円仁（慈覚大師）の哲学を理解する上で是非知っておくべき「常行堂」というものもあるが、ここでは白山神社能楽殿に焦点を絞ってご案内をする。



(<http://www.chusonji.or.jp/guide/precincts/mapwindow.html> による)

この画面の左上に「能楽堂」というのが見え、その斜め奥に白山神社がある。これからそこへ向かうのだ。



「金色堂」を背にして、左前方を見ると、小さな両部鳥居が立っており、その先は砂利道の参道となっている。

(<http://blogs.yahoo.co.jp/syory159sp/27719368.html> による)



神社の拝殿に向かう途中に、国重文の「白山神社能楽殿」がある。

(<http://blogs.yahoo.co.jp/syory159sp/27719368.html> による)



茅葺き屋根の能楽殿

(<http://blogs.yahoo.co.jp/syory159sp/27719368.html> による)



鏡板に描かれた「老松」

(<http://blogs.yahoo.co.jp/syory159sp/27719368.html> による)



(<http://blogs.yahoo.co.jp/syory159sp/27719368.html> による)



唐破風の向拝を持つ拝殿

祭神：伊弉諾尊・伊弉冉尊

(<http://blogs.yahoo.co.jp/syory159sp/27719368.html> による)

中尊寺の近くには、中尊寺境内の白山神社の他に、二カ所の白山神社がある。平泉町長島字白山21番の **白山神社** と平泉町平泉字衣関173番 **白山神社** である。このことは、白山信仰の本拠地・福井県、石川県、岐阜県の県境にまたがる白山の修験者が秦氏に引き連れられてこの地にやって来たことを意味している。円仁（慈覚大師）が、今は北上川の一関（いちのせき）遊水池にあった藤原氏「柳の御所」の支援の下、中尊寺を創建する際に、彼らは秦氏の差配に従って然るべき宗教活動をしたのであろう。

なお、ちなみに、この際、中尊寺、毛越寺ならびに「柳の御所」の関係のホームページを紹介しておきたい。

中尊寺の公式ホームページ：<http://www.chusonji.or.jp/>

毛越寺の公式ホームページ：<http://www.motsuji.or.jp/>

「柳の御所」の公式ホームページ：<http://hiraizumi.or.jp/sightseeing/yanaginogosoiseki/>

私のHP「毛越寺の延年の舞」：<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/mounoubutai.pdf>